

Waxing Table for Alpine Ski

高橋匠

デザイン工芸コース

アルペンスキー選手として培ってきた経験を元にスキーのメンテナンスを行うワックステーブルを制作した。オンシーズンとオフシーズンの両方の顔を持つスキーと同様に、このワックステーブルも飾り棚としての機能を兼ね備える。従来のワックステーブルはオフシーズンの間は収納されてしまう傾向が多い。そのため日常的な家具としての姿も持たせることは、本作品がオールシーズンに適応する重要な要素と考えた。スキーを生涯続けていく中で、道具を大切に想い、メンテナンスを心掛けていくことができる家具を、ここに提案する。



家具／ナラ材・牛革／h930×w1400×d350mm

外と中

越村日奈子

デザイン情報コース

日々私達が無意識に行なっている「現実から想像を膨らませる行為」と、「読書において物語を追体験する行為」には『想像することの魅力』という共通点がある。本研究は、本という媒体を使ってその魅力を最大限に表現することを制作の要としている。

タイトルの『外と中』は作者の頭の外で起きた現実、頭の中で考えた想像を意味し、本書はその両方を隔てて書いている。現実と想像の両方を開示することで、読者なりに作者の日常の想像や、更に新しく想像を働かせるなど、読むことで強制的に想像の魅力を感じてくれる『装置』を目指した。「現実」と「想像」の違いを視覚、触覚からも表現するため、表紙、帯、現実文、想像文等で紙質を変え、一冊を通して装置としての本を追求している。



林檎をモチーフに表紙は少しざらついた実を、帯はつやつやとした皮をイメージし、それぞれざらつきのある紙と光沢のある紙で表現。中身が内(想像)を示し、皮が外(現実)を示す。

「現実」の紙は、明瞭さ、混じり気のなさを、コントラストの強い平滑な上質紙で表現。「想像」の紙は、雑然さ、不明瞭さを、粗く明度の低いざらついたマガジン紙で表現。

イメージブック／文庫 194p/h105×w148×d11mm

わが家のひと味

高森美帆

デザイン情報コース

風邪を引いた時に作ってくれる元気が出る食べ物、お母さんと初めて作ったおやつ。家庭料理にはそれぞれ家族への愛情や知恵、工夫、思い出が詰まっています。それらが味わいとなって、私たちはほっとするようなあたたかく幸せな気持ちを感じます。〈わが家のひと味〉は、自分の家庭に思いを馳せてもらうための家庭料理をもとにした食品ブランド。家庭料理の味わいで日々の暮らしに安心と幸せを添えます。



ブランディングデザイン／ラベル紙にオンデマンド印刷

Ohashi, Natsue Yui

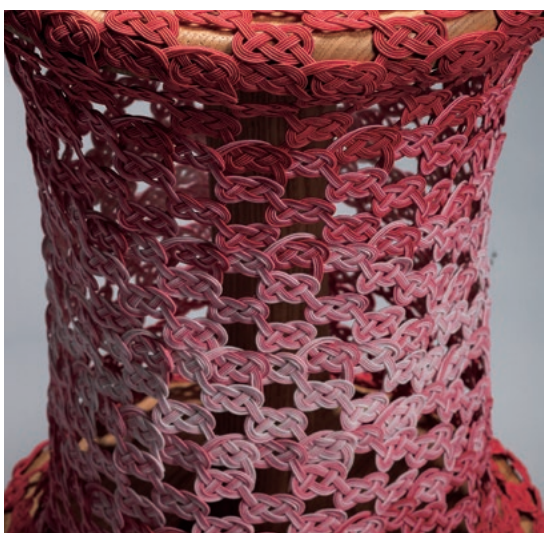
結

一伝統工芸「水引」を用いた家具の提案一

水引・栗・染料
φ300×h400mm大橋 なつ絵
デザイン工芸コース

水引は主に祝儀袋の飾り紐として用いられている。中でも石川県の「加賀水引」は、大正初期頃から始まり、立体的で美しい伝統工芸として親しまれてきた。これら水引の装飾をより身近な家具へと展開することで、現代の暮らしを彩る新しい「水引」の在り方を提案する。

この家具は、水引で覆われた1本足のスツールとなっている。スツールは無垢の栗を加工して制作し、水引は「抱きあわじ結び」と呼ばれる水引細工の結び方を用いた。水引の細工は全て手編みで行い、赤色のスツールには染色を施し、グラデーションを表現した。水引という伝統素材を通して、手作業ならではのものづくりに挑戦した。



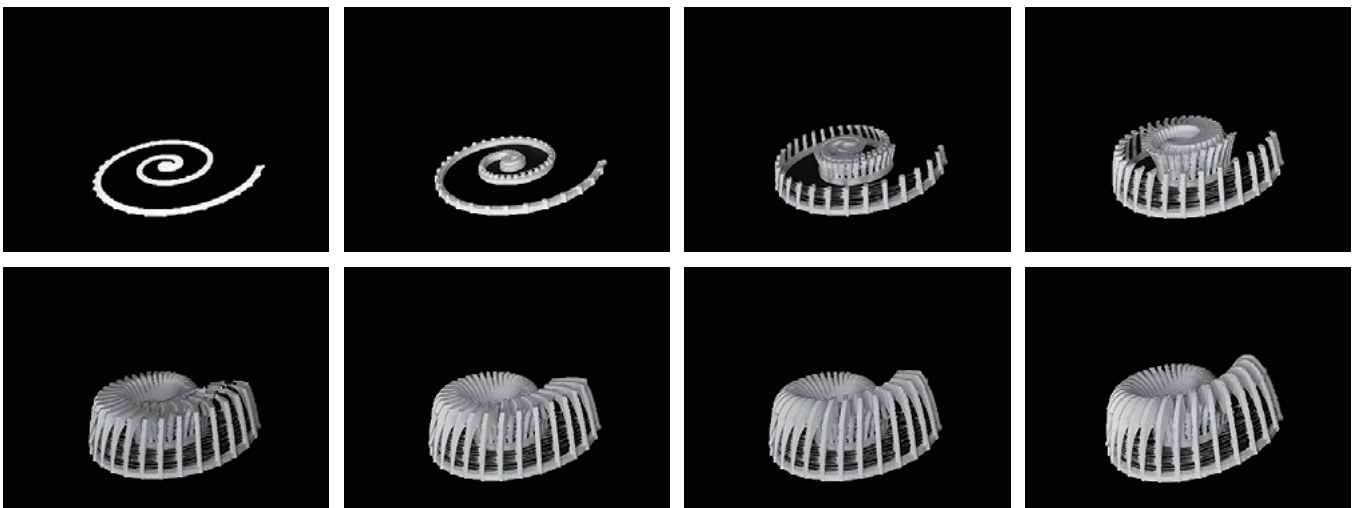
The story of movement

フリップブック
h187×w229×d58mm (594ページ)

寺中 勇太
デザイン工芸コース

Geibun Prize 2018 受賞

3Dプリンターを初めて動かしたとき、私は「不思議」な気持ちになりました。パソコン上の『データ』が、タッチパネルの『ジョブ実行』の操作で、目の前で正確に立体化されていく。0.2mm ごとに積層していくフィラメントが徐々にその形を目指していく様に、時間が許す限り、それを見ていたいと思ったものです。ならば、その積層の全てをフリップブックとしてまとめたらどうだろうか。そう思い立ち制作したのが『The story of movement』です。本書を通じて「不思議」な積層の物語、新たなものづくりの風景を感じてください。



芸文生とあなたを繋ぐ雑誌
 一人の魅力を引き出す付録付き冊子の提案—
 冊子 (全8種類) h210×w180mm 16ページ
 パッケージ (真空パック) h350×w450mm

村中 仁衣奈
 デザイン工芸コース

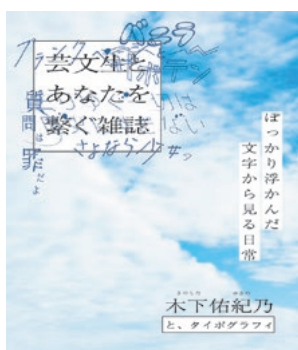
芸術文化学部で共に学んでいる様々な分野の学生をより魅力的に発信するための、雑誌と付録とパッケージのデザイン。

絵画、木工、金工、漆、タイポグラフィ、イラストレーション、建築、地域キュレーションを学ぶ8名の学生を選び、全8種類の雑誌を企画・制作した。

真空パックによって芸術文化学部生＝『芸文生』のいま、その瞬間の空気感を閉じ込めている。



芸文生と
 あなたを
 繋ぐ雑誌



Miura, Momoe *Blanding for St.berry Coffee*

St.berry Coffeeのブランディング

三浦 百絵

デザイン工芸コース

セントベリーコーヒーでは、店主自ら世界中の産地へ足を運び、コーヒー豆を買い付ける。1杯のコーヒーに込める思いは熱い。店頭でお客様に手渡すコーヒーカップには、時折手描きの文字やイラストが添えられる。

St.berry's Coffee makes you smile.

すべてはコーヒーで笑顔を作るために。



1_ 木製の什器や手描きの黒板が印象的な店内。以前のイメージを残すため、黒板をモチーフにお店のツールをデザイン。2_ お店のユニフォーム。胸には店のロゴマークとラテアートの缶バッジ。バッジはギフト用のラッピングで、リボンの代わりとしても使われる。3_ コーヒーカップを上から覗いたような名刺。氏名は本人の手描き文字を使用している。お客様に手渡すコーヒーカップにも手描きのイラストが添えられ、手の跡を残す表現でコーヒーへの愛情を伝えている。4_ 本の上の表紙のようなメニュー表。中には、世界各国のコーヒー産地に訪れた際の旅の記録や、新作ラテアートのイラストが載っている。

ダンベル

真鍮・クロムメッキ
φ70×h125mm
φ94×h135mm

梅澤 木綿
デザイン工芸コース

健康的で美しい身体を得たいという欲求が高まったとき、人はトレーニングを行います。きっかけは太ったことへの焦りであったり、スポーツで活躍するためであったり、憧れの人に近づくためであったりと人によって様々です。

この様々なきっかけで始めた理想の姿には、男性であれば腹筋が割れていて、肩や胸にがっしりとした筋肉がついていて、つやのある健康的な日焼けした肌。女性であればお腹はへこみ、ウエストには美しいくびれができており、二の腕には贅肉がなく、引き締まったお尻でつやのある美肌、といった共通認識があります。その共通認識としてある理想の姿への期待を、人はトレーニンググッズに知らず知らずに抱き、お金を払っています。

トレーニンググッズの中でも認識度が高いダンベルに、男性と女性それぞれの理想的な体型を持たせることで、その事象への気づきと共感を得る、それがこの作品の目的です。



跡が残る靴下

靴下・刺繍糸
h500×w50mm

柿本 萌
デザイン工芸コース

憧れや願望、ふだん何気なく思っていることをイラストにし、それを靴下に刺繍した。本来なら外側に施される刺繍が、内側にされている。1日靴下を履いて、夜になって脱ぐと模様が脚に浮かび上がる。



鏡よ鏡、あなたはお元気？



とりあえず星に願いを



自由に泳ぎ回る



こするのはだめ

一輪茶

紙（紙ナプキン・シガレットペーパー）
φ25×h27mm

鈴木 智佳

デザイン情報コース

縮めたストローの包装用紙に水を含めるとウネウネと動きながらかたちを変える。このような吸水に伴って見せる紙の動きに興味を持った。

このティーバッグは、水に入れた瞬間かたちを変える。吸水したティーバッグは、蕾から開花に向かって早回しで見ていくように変化する。同時に透明な水を染め上げ、香りを放ち、湯の中に一輪の紅茶の花が咲いていく。

従来のティーバッグの簡便で機能的な手軽さに情緒的要素が加わることで、紅茶を淹れる“豊かな時間”を感じることができる。



animaroll

トチ・ベイヒバ・ブラックウォールナット・ケヤキ・タモ・羊毛
h560×w560×d275mm
h380×w400×d197mm
h270×w290×d160mm

本康 茉侑
デザイン工芸コース

ひもは巻くだけで表情を生み出します。

たくさん巻けばころころになり

色柄の層を身にまとい持ち主だけの animaroll になります。

思わず抱きしめたくくなるような

家族の一員のような存在を目指しました。



Rosy Hair / 坂本商店

一家族で営む美容室と酒屋のブランディング

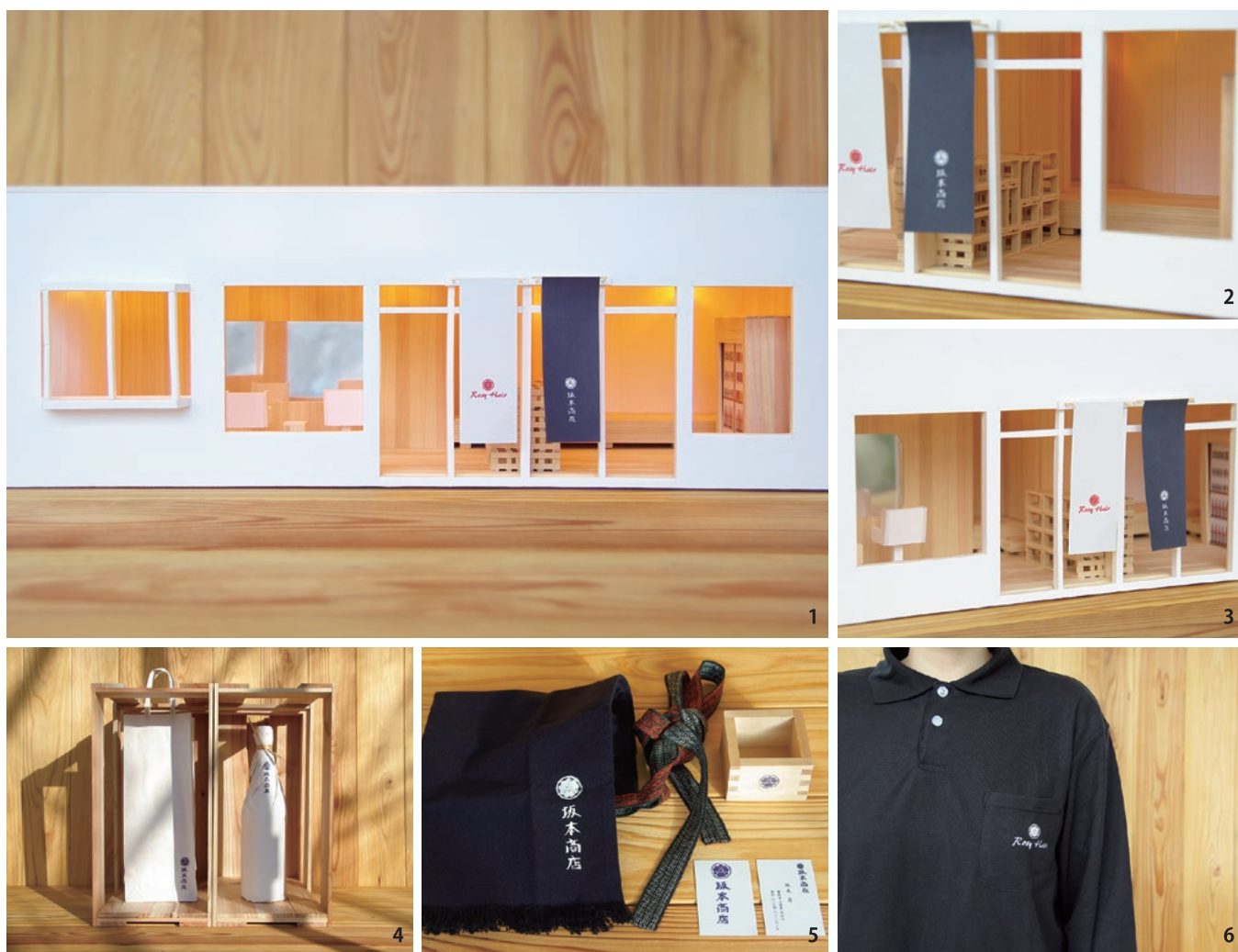
杉・紙・スチレンボードなど
h435×w510×d255mm
h135×w520×d240mm

加庭 愛美

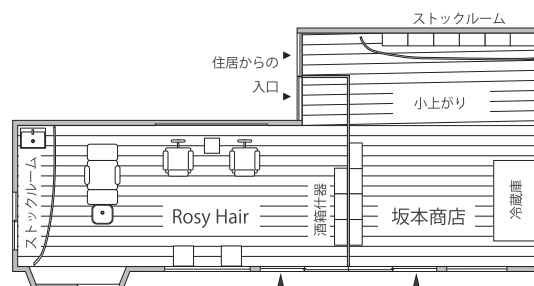
デザイン工芸コース

代々続く酒屋・坂本商店の隣に壁一枚を隔てて美容室・Rosy Hair がオープンしたのは数年前のこと。この二店は家族三世代で営まれており、どちらも主に地域の人たちを顧客としている。協力し合って経営していくことは、この家族の結束を強いものにし、顧客の共有は店の繋がりを濃くしている。それぞれの歴史、業種、顧客の来店目的は違えど、お互いになくってはならない関係にある。この関係を深め、店の価値をさらに高める手段のひとつとして今回のブランディングに取り組んだ。

ローコストを基本に計画された両店舗の内装は、床、壁ともに杉板を張り、さらに木製の酒箱をモチーフにした什器を共通で使うことで互いの調和を図った。高齢で足腰の弱い祖母がお店に立ちやすくするため、酒屋には小上がりを設けた。ストックルームとの仕切りにはカーテンを使い、狭い店内を機能的に仕切っている。カードや紙袋、包装紙などのショップツールはスタンプによって完成する制作方法をとり、店主がスタンプを捺すことで、お客様への想いを込めてほしいことを意図している。



- 1 店舗正面。中は壁に仕切られた2店舗であるが同一空間の様に見える
- 2 坂本商店側内装。右奥に小上がりと仕切りカーテンが見える
- 3 Rosy Hair側内装。坂本商店と共通の酒箱什器を使用
- 4 木製の酒箱什器。昔使われていた酒箱がモチーフ。底板を置いて使用
- 5 祖母の直筆をロゴに。スタンプ化し、カードや紙袋、包装紙に捺す
- 6 Rosy Hairのユニフォーム



お手玉を用いた高齢者向け トレーニング遊び

木綿・穀物
h100×w200×d100mm, h50×w50×d50mm

藤澤 絵梨

Fujisawa, Eri

デザイン工芸コース

「トレーニング」という言葉から連想される、強制され苦痛で消極的という印象を取り除くこと、高齢者の運動能力低下を抑えることを目的とし研究を行った。

この研究で取り扱った「お手玉遊び」は高齢者にとって馴染みが深く、万人が知っている昔遊びのひとつである。その中身は自然素材が使われていることが多く、とても扱いやすく馴染みやすい。

この研究では、まず高齢者が日常生活において困難だと感じることを、低下していく能力について検証した。そして身体感覚に訴えかける「お手玉」を制作し、それを有効に使いつつ身体動作に訴えかける「遊び」を設定した。

苦痛なトレーニングとは異なり、「お手玉遊び」には危険が少なく、生活の中で無理をせず続けられ、楽しく遊びながら運動できる。



「お手玉 (大)」

左 両手で包めないほどの大きなお手玉。

右 中にはボビン、瓶の王冠などが入っており、探しながら握ったり掴んだりすることで手のひら全体の運動になる。



「お手玉 (並)」

左 紅白に色分けされたお手玉。それぞれ重さや感触、香りが異なる。

中、右 赤い玉に向かって投げる的当て遊び。指から肩にかけての関節だけでなく、全身を使う運動になる。

ヒーロー達の銃シリーズ —ダンボールを用いた製品の提案—

ダンボール・紙

h175×w270×d18mm

h140×w216×d27mm

h160×w672×d36mm

h285×w999×d78mm

h153×w306×d45mm

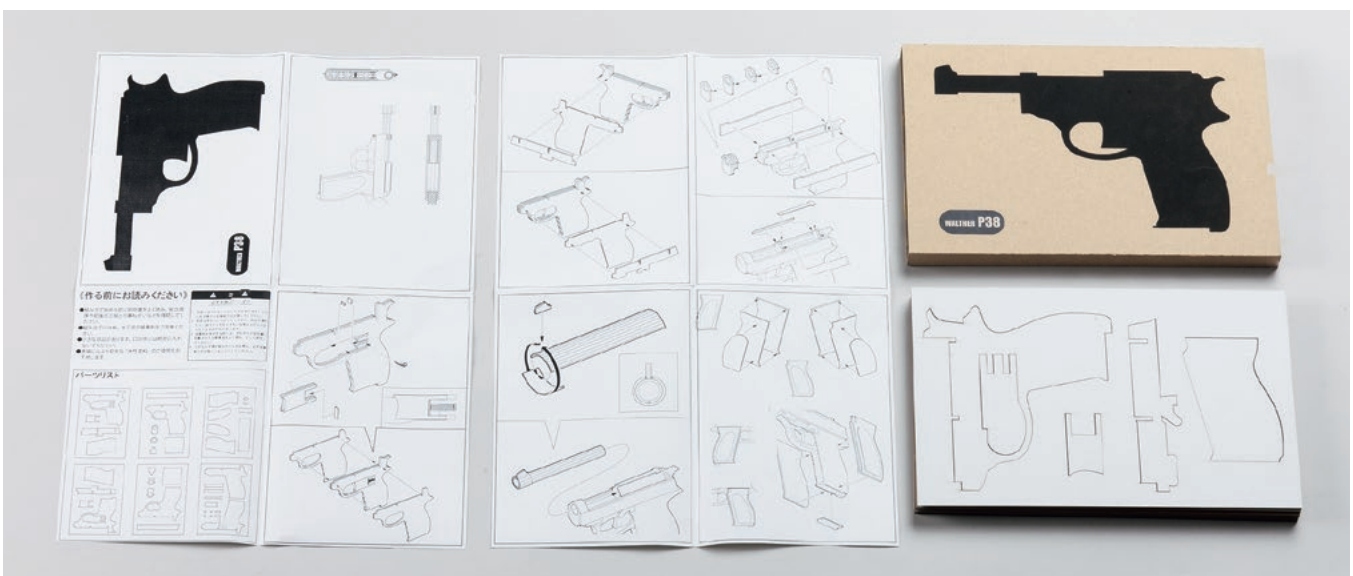
岩滝 陸王

Iwataki, Rikuo

デザイン工学コース

一度見たら忘れられない心に残るヒーロー達。彼らの活躍を、彼らが手にした名銃から思い起こさせる「ゴッコ遊び」のツールを制作した。

作品は安価で軽量のダンボールを用いた組み立てモデル。ダンボールらしさを残したシンプルな構造は、大人から子供まで組み立てが可能な難易度を実現し、親子で一緒に組み立てるコミュニケーションツールとしての役割も担うことを想定している。リアル系のブラックモデルと、彩色が可能なホワイトモデルを用意した。



豊かな暮らしシリーズ

パッケージデザイン

廣瀬 由佳

Hirose, Yuka

デザイン情報コース

私たちは日常生活において、お店で様々な商品にふれるとき、どれだけ意識してパッケージを見ているでしょうか。使ってみたいと感じさせる魅力は、本来商品自体にあります。商品を含んでいるパッケージからその魅力を感じさせることができないかという思いが研究のきっかけです。パッケージ自体から豊かな暮らしを沸き立たせるようなデザインをめざし、研究しました。

素材そのものがシズル感や新鮮さ、信頼を通して豊かさを感じることに着目し、“素材”をパッケージにしました。原材料や本来の姿、行為の成果など、あらゆる“素材”で商品を包みました。パッケージに表した、私たちが何気なく行っている日常の記憶と結びつけて、豊かな暮らしを想像してみてください。

豊かな 暮らし シリーズ



ディスプレイの法則

スチレンボード・紙
h60×w200×d140mm

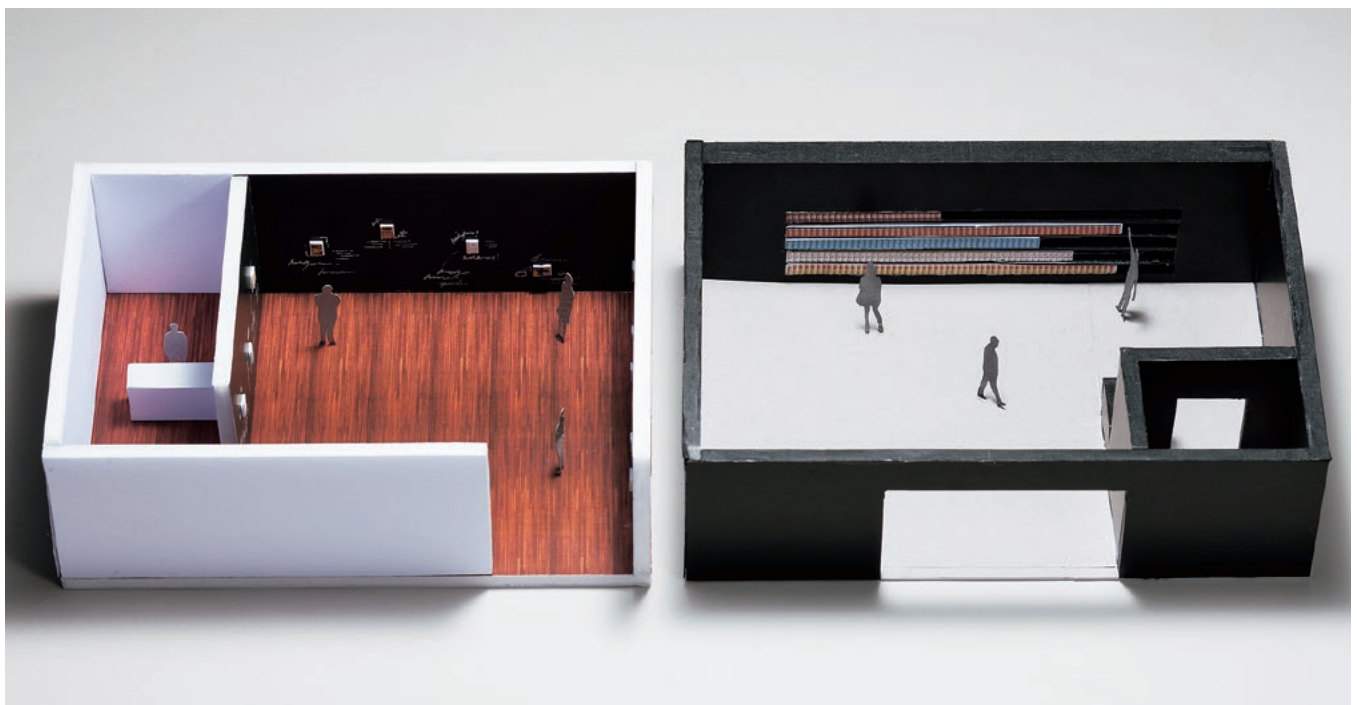
堀 佳奈恵

Hori, Kanae
デザイン工学コース

本研究における「ディスプレイの法則」とは、一般的な商品販売店舗において、ディスプレイがどのような要素で構成されているのか、特徴的な要素を3つ見出しそれを法則としたものである。

今回対象とする商品販売店舗を、「本屋」「靴屋」「服屋」「電気屋」の4店舗に設定し、それぞれに「ディスプレイの法則」を設定します。そしてその法則を構成する3つの要素に特化した店舗のアイデアを提案します。3つの要素から成る「ディスプレイの法則」に基づく店舗と、それぞれ要素を特化させた店舗では全く特徴が異なることが分かります。

「ディスプレイの法則」を知ることで一般的な商品販売店舗におけるディスプレイを理解し、その法則の中にある要素だからこそ特徴あるデザインが生み出せる可能性があるのです。



本屋の「ディスプレイの法則」を、什器の「本棚」、広告の「ポップ」、本特有の置き方「平積み」に設定する。



「ポップ」

黒板の壁に本が貼られ、傍には本の情報やあらすじが書いてある。それを誰もが書き込むことができる空間。他人の痕は時に力強い。



「本棚」

各段に同じ種類の本を並べていくと棒グラフのように見え、どの本が売れているのか一目で分かります。売れ筋は欲しくなることがある。

形が生む関係性について

一子ども用家具メーカーへのシリーズ家具の提案一

パイン集成材・ブナ無垢材・ブナ成形合板

- ① h700×w1060×d600mm
- ② h670×sh420×w410×d385mm
- ③ h350×w1000×d250mm
- ④ h310×w310×d250mm
- ⑤ h310×w155×d250mm
- ⑥ h560×w350×d250mm
- ⑦ h350×w1060×d600mm
- ⑧ h450×w660×d450mm
- ⑨ h480×sh260×w320×d320mm

西田 芽以

Nishida, Mei

芸術文化学研究科

現在市販されている子ども用家具は、乳幼児用施設向け家具・乳幼児用家庭向け家具・就学児用施設向け家具・就学児用家庭向け家具の4種類に分類できる。

今回、乳幼児用施設向け家具を主に扱う企業に向けてシリーズ家具を提案する。このシリーズ家具は、対象企業で販売している「一人用木製机」「乳幼児用スタッキング椅子」を基本形として設計している。特に「乳幼児用スタッキング椅子」は年間約2万脚の販売数を誇るベストセラー商品であり、この商品を設計の基本とすることで、企業ブランドのもつ信頼感や確かな技術力を乳幼児用施設向け商品以外にも拡大させることを狙い、本来個別に分かれた乳幼児用施設向け家具・乳幼児用家庭向け家具・就学児用家庭向け家具の3分野を統合する新たなブランド提案でもある。

本研究は富山県南砺市の木工所の研究協力のもとに進めたもので、プランニング及び設計は大学、試作材料提供及び制作は木工所が行なった。



① 就学児用家庭向けデスク / ② 就学児用家庭向けチェア / ③ 箱棚1 / ④ 箱棚2 / ⑤ 箱棚3 / ⑥ ワゴン



⑦ 乳幼児用木製机 / ⑧ 乳幼児用スタッキング椅子

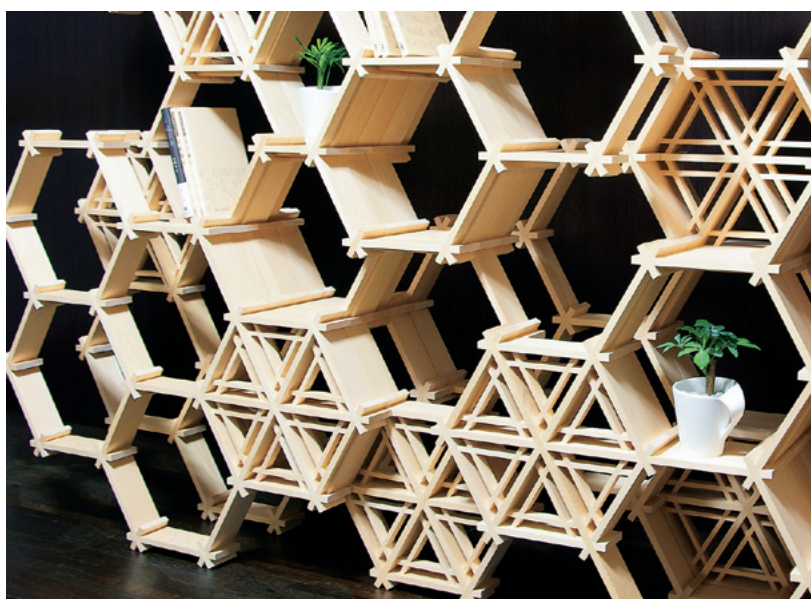
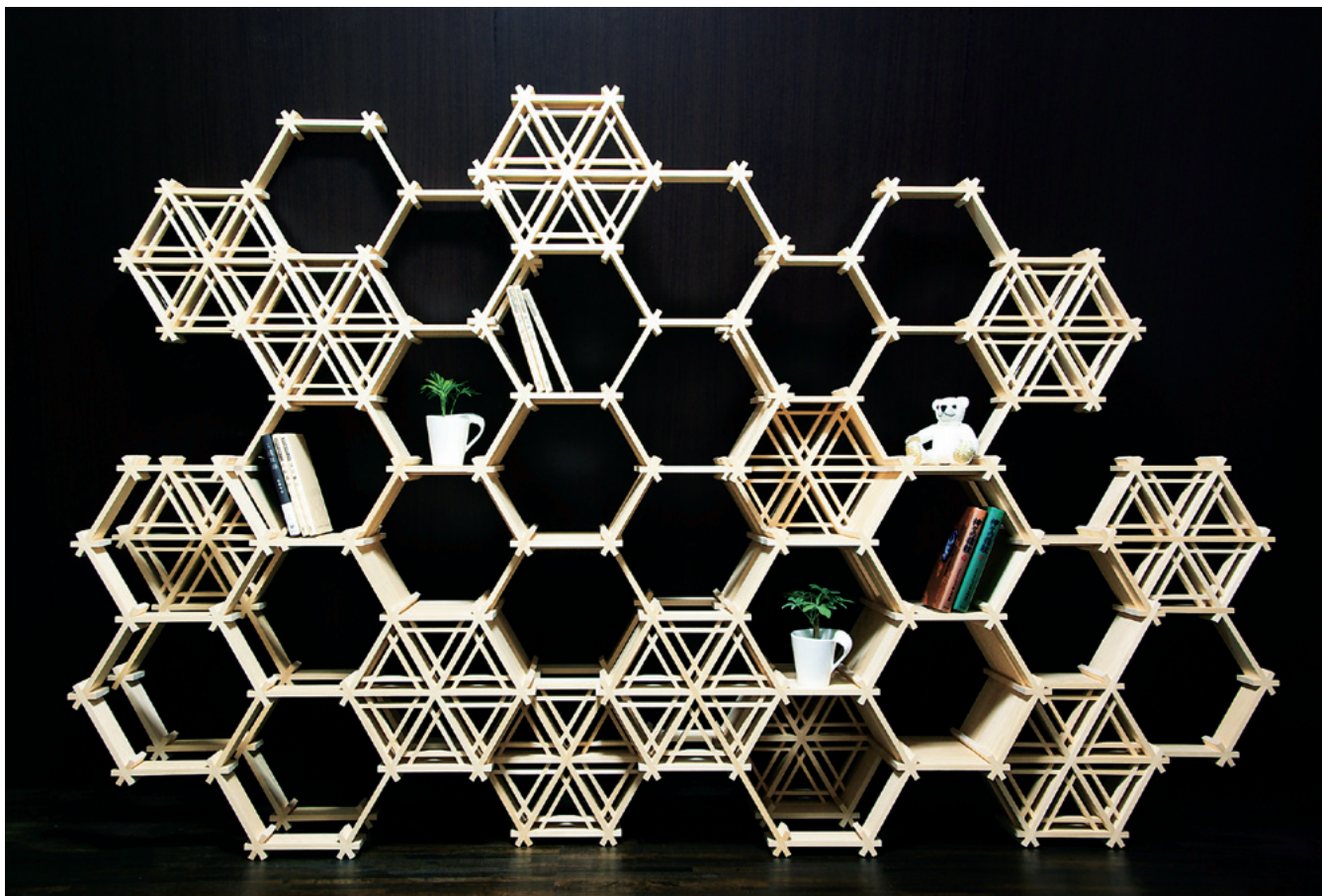


⑧ 一人用木製机 / ⑨ 乳幼児用スタッキング椅子

組子の家具

米ヒバ・組子
h1370×w2200×d300mm

梅木 彩夏
Umeki, Ayaka
デザイン工芸コース



世界よ広がれカード

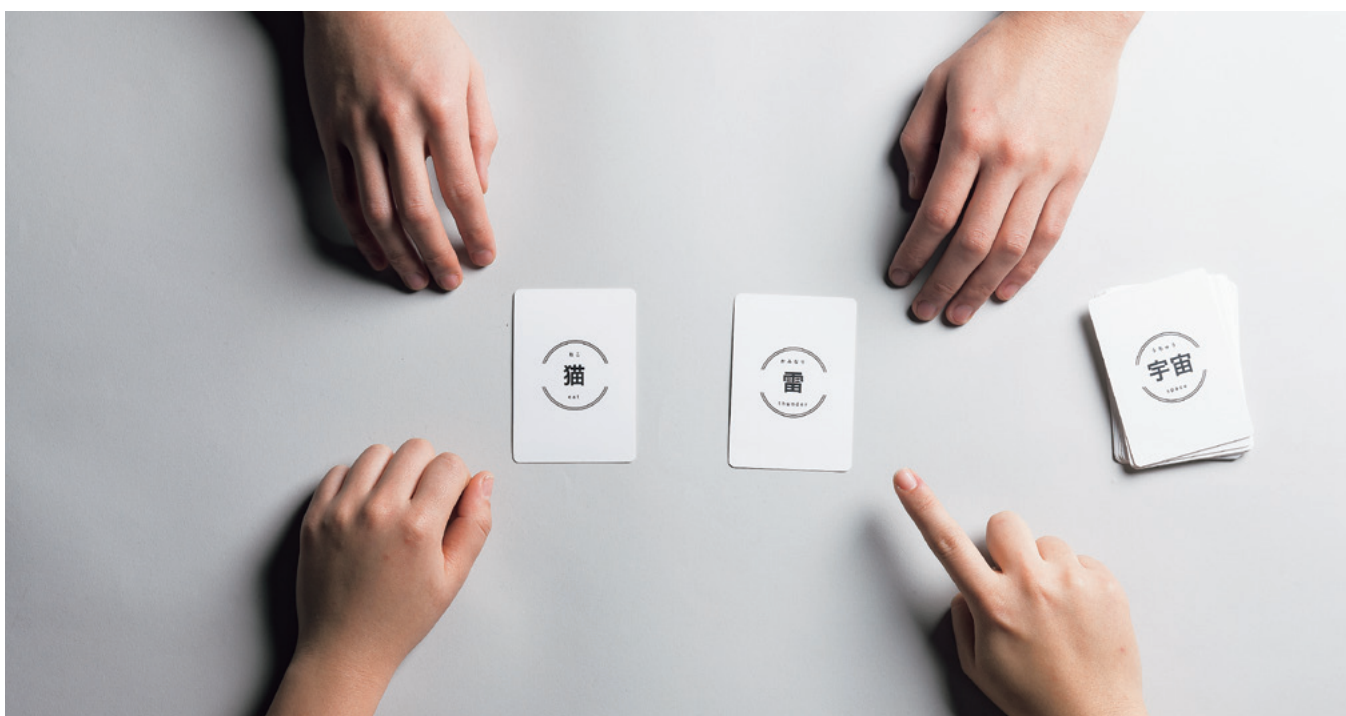
カード
h89×w63mm

平野 暉
Hirano, Hikaru
デザイン工芸コース

生まれてから現在までに得た様々な知識や経験、記憶などの要素があなたの中に積み重なっています。それはまるで地層のように堆積し、土壌を作り、あなたの“世界”を創りあげています。ときにコミュニケーションはその“世界”の境界を無くし、それぞれにストックされている様々な要素を共有化（シェア）する力を持ちます。これはお互いの“世界”を意識させ、広げるためのカードです。

一カードの遊び方（何人でも遊べます）

シャッフルした山札から2枚のカードを引き、そのカードに書かれている言葉を見ます。偶然でできた2つの言葉を手がかりに自由に会話をし、参加者同士の“世界”がシェアされていくことを体験してください。シェアから始まった“世界”の変化は、次第に自分たちの“世界”を超え始めます。このカードが鍵となり「世界が広がった」ことを実感してください。



高岡HUB計画ガイドブック

書籍
120頁

三宅 沙英
Miyake, Sae
デザイン工学コース

JR 高岡駅地下街を拠点に活動をする有志学生プロジェクト「高岡 HUB 計画」。商店街や高岡市のイベントと連携し、「駅」を人と人がつながる“HUB”とするあり方を見つけようとしている。

このプロジェクトが発足した 2013 年 10 月からメンバーとして関わってきた著者が企画の様子やプロセスを語る。

“地域活性”という言葉が溢れている地方都市で高岡 HUB 計画は何を作ろうとしたのか。街に関わる様々な人を巻き込みながら実行していく企画を巡り、高岡 HUB 計画がひろげるコミュニティの形を追体験して頂きたい。



1	2	1_ ぐるぐると浮かぶアイデアの数々をイメージしたガイドブック表紙。2_ 著者とメンバーが撮りためた写真。そこに映っているものはまぎれもなく高岡で起きていた出来事である。飾らない写真でその場の空気を伝えたい。3_ 駅の地下に実験室を作った時の様子。4_ プロジェクトに関わった、新聞記者、駅地下担当のプロデューサー、立山町雇用創造協議会の職員、明治大学の学生のインタビュー。業種や関わり方も様々な彼らの話から高岡 HUB 計画の姿がより、はっきりと見えてくる。
3	4	

組木の再構成

一季節を感じられる組木一

ヒノキ、水性塗料

ツリー : h307×w144×d144mm

花 : h375×w140×d140mm

雪だるま : h207×w150×d150mm

犀川 友絵

Saikawa, Tomoe

デザイン工芸コース

組木とは、いくつかの木の部材を組んだり外したりすることのできる立体パズルである。これは、建築の組みの技法を応用してつくられたもので、組み方が複雑なため、オブジェとしての要素も高い。

私はまず、既製品の組木の仕組みを研究し、様々な形状が存在する組木も基本的には数種類の組みのパターンから構成されていることに気づいた。そこで、従来の組みのパターンを再構成し、オリジナルの組木をつくろうと考えた。

今回制作した組木は、季節の変化に応じて飾るタイミングを意識させるようなモチーフを選んだ。インテリアの一部として、より気軽に生活空間に取り入れられる組木を目指した。



ツリー : 組木のオーナメントや松ぼっくりをおいて飾り付けます。(36 ピース)

花 : 花と葉を1本の軸から外してゆくことができます。(11 ピース)

雪だるま : オーナメントやお菓子を置いて楽しめます。(23 ピース)



暮らしの中のギフト100

書籍 B6判 413ページ
 チョコプレート h4×w80×d80mm
 封筒 h146×w98mm
 花瓶 h83×w53×d40mm

諸我 仁美
 Moroga, Hitomi
 デザイン工芸コース

朝起きてお弁当を作ったり、買い物をしてカードにスタンプを押してもらったり…。誰もが知っている日常のシーンには、“今頃お弁当を食べている頃かな”という家族の気持ちや“お店に来てくれてありがとう”という店員さんのささやかな想いなど、様々な立場の人の想いが込められています。

「ギフト」とは、普段誰かに気持ちを込めたり、誰かの気持ちを受け取ったりするときの『人と人の心をつなぐきっかけ』であると考えています。日常の誰かの“想い”に気づくと、私たちは毎日あらゆる場所で、あらゆる人達と気持ちでつながっているのだと、改めて感じられます。つまり、身近にはそれだけ多くの「心がつながるチャンス」が隠れているということ。そのことに少しでも多くの人に気づいてもらうため、日常でギフトを連想する100のシーンと、それぞれのシーンに対するアイデアを一冊の本にしてまとめました。この作品が、暮らしの中にあるたくさんの「ギフト」に気づく新たなきっかけになることを願っています。



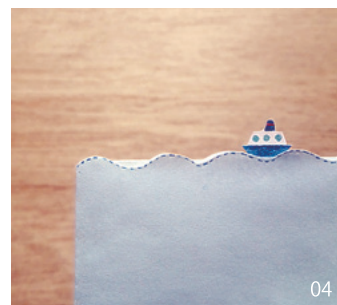
01



02



03



04



05

- 01 『暮らしの中のギフト100』
 日常からギフトを連想する100のシーンと、それぞれのシーンに対するアイデアをまとめた一冊。
- 02 アイデアスケッチ
 一つひとつのシーンがもつ、いくつもの切り口や視点、立場から考えた「新しいギフト」の提案。
- 03 分けられるチョコプレート
 花弁を割って、一緒に祝ってもらって嬉しい気持ちをおすそ分けできる。
- 04 切り取り線のついた封筒
 封を開ける瞬間は、手紙をくれた相手に会いにいくようにワクワクする。手紙を読む前の一瞬にも想いを込めた封筒。
- 05 みちくさ花びん
 学校の帰り道、ふと足元を見たら咲いていたかわいい花。子どもが見つけた「道草のおみやげ」を、大切に飾っておける。

OFFのデザイン

木・シリコン・紙・ワイヤー
 メモ：h54×w85×d40mm
 キーケース：h60×w85×d60mm
 シール：h2×w15×d15mm
 ハンガー：h70×w70×d70mm

藤田 陵

Fujita, Ryo

デザイン工芸コース

日常生活に溶け込み、そのデザインが“デザイン”されていることにすら気づかずに永く使われているものがある。このようなものは誰もが思いつくような“当たり前のこと”がデザインをかたちづけている。私はこの点に着目した。そこで掲げたコンセプトが2つある。1つ目が使わないときに美しいもの、2つ目が無意識の行動を促すものだ。この2つの共通点はそのものを意識しない(=OFF)状態になることだ。ここから「OFFのデザイン」というテーマが生まれた。

研究の対象には「玄関」を選んだ。なぜなら帰宅すると傘や鍵を置き、靴を脱いで上着を掛けて中に入っていく。このように玄関は人の生活のオン・オフが切り替わる場所、テーマに合ったヒントが得られると考えたからだ。実際にさまざまな玄関を調査し、住む人の“当たり前のこと”を探った。そこからアイデアを得たうえで、テーマに沿って、メモ、キーケース、傘かけ、コートハンガーの4つのプロダクトを考えた。



カードメモ

買うものや用事を忘れないようにメモをする。このメモは固くて角がまるい、財布の中のカードと同じ形をしている。どこに入れるかは無意識に財布のポケットになる。

レモンのキーケース

鍵の束は雑多な印象を与える。シリコン製のケースに鍵の束は隠れ、レモンとして玄関に爽やかな印象を与えてくれる。

傘のシール

ちょっと傘を掛けておく。どこかに引っ掛けるのは便利だが、滑り落ちてしまう。傘の柄にゴム製のシールを貼るだけで滑らない。傘が滑らないように意識することはなくなる。

コートハンガー

天井から球がぶら下がっている。だれもそれがコートハンガーだとは思わない。何に使うかわからなければ、ハンガーだと意識することも無い。

嫁入りトランク

カツラ・成牛タンロー
h360×w450×d190mm

石黒 聖那

Ishikuro Satona

デザイン工芸コース

私たちは今生活している中で、両親、兄弟、友達、恋人、たくさんの人たちと共有した大切な思い出、財産を持っている。子どもの頃遊んでいたおもちゃ、大好きだった絵本、友達との写真、たとえ今すぐに思いつかなくてもたくさん思い出のものがあるはず。今までの自分の軌跡として、その思い出を持って結婚したい。そこで、思い出を持っていくための道具を、新しい「嫁入り道具」として提案する。

この「嫁入り道具」はトランクのかたちをしている。それは思い出を詰め、持っていく鞆であり、持って行った先では、思い出を大切に保管できる家具となる。また、たくさんある思い出を整理するため、トランクの中には革の小箱を詰めた。様々なサイズの箱があり、何を入れるか楽しみながら考えてもらいたい。

結婚前に自分の身の回りの整理をする。家族と思い出話をする。子供ができたなら…なんて旦那さんと話をする。そんな時間のきっかけをつくる嫁入り道具。



環境に適応するソファ

檜、ファブリック
 h300×w600×d600mm
 h600×w600×d200mm

麥田 志織
 Mugita Shiori

デザイン工芸コース

『環境に適応する』には二つの意味があります。

一つ目は、「ライフステージに適応する」。一人暮らしから、結婚し家族ができるまでは、部屋の広さや暮らしている人数が変わります。このライフステージの変化に適応させるために、ソファを連結式にしました。例えば、一人暮らしでは1つのソファ、家族が増えたら2つ、3つと増えていきます。

二つ目は、「ものが雑多になる状況に適応する」。ソファはくつろぐ場所ですが、一方で人が集まる分ものも集まり雑多になりやすい場所です。収納のあるソファをつくることで雑多なものが納まり、居心地の良いソファとなります。



冷茶一揃い

鍛金・銅板・銀メッキ・耐熱ガラス・ヒノキ
 お盆：φ272×h37mm
 ピッチャー：φ80×h90mm
 カップ：φ60×h35mm
 蓋：φ73×h8mm
 コースター：φ73×h1mm

桶谷 藍子

Oketani Aiko

デザイン工芸コース

鍛金技法で制作するにあたって、どのようなものが金属の特性を活かせるのかを考えた。金属は熱が伝わりやすく、熱さと同様、冷たさも早く伝わる。私はそこに着目して、冷茶をより冷たく美味しく楽しむための抽出方法の研究と、茶道具一式のデザイン・制作を行った。素材は金属の中でも特に熱が伝わりやすい銅を用い、銀メッキを施した。

茶葉とたくさんの氷を詰め込んだガラスのピッチャーは、次第に鮮やかな緑色に染まる。注がれるとお茶の冷たさが金属のカップに伝わり、カップ全体が瞬時に冷たくなる。出来上がった冷茶は少量にうまみが凝縮された贅沢な味わいになっている。

冷茶を目で、指先で、唇で、舌で楽しんでいただきたい。



1



2



3



4

- 1 道具一式をしまうための曲げ物の茶びつ。蓋は返すとお盆になる。
- 2 ピッチャーの下部とカップは同じ傾斜になっている。
- 3 皿状の落とし蓋で氷を押さえて注ぐ。
- 4 カップの外側が鏡面であるのに対し、内側はマットな質感になっていて冷茶の緑色が映える。

使い続けるデスク

タモ・布・ウレタンフォーム
h720×w1200×d450mm
h810×sh430×w440×d490mm
h810×sh480×w350×d400mm

南條 智世

Nanjo Tomoyo

デザイン工芸コース

子供の頃から使っていたものを大人になっても使っていけるような、長い間その人と生活を共にするものを作りたかった。身近なもので、誰もが幼い頃使っていたらう学習机をテーマとして選んだ。

どうしたら使い続けることができるのだろうか。今までの学習机は「子供向け」の意識が強すぎるのではと思った。大人になってからのことを視野に入れていないとも感じた。

子供も大人も違和感なく使用できるように机は天板に脚があるだけの単純なカタチにした。また、椅子は子供用と大人用の二脚用意した。子供の成長に合わせてだけでなく、子供が勉強をしている横でお父さんお母さんが一緒にいてあげられるようにした。

自分の成長と共に家族の思い出が詰まった、学習机として使い続けて欲しい。



ソファ —布団と木のベンチ—

ベンチ：タモ

布団：綿（70%）ポリエステル（30%）
h700×sh410×w1600×d580mm

杉木 涼

Sugiki Ryo

デザイン工芸コース

晴れた日に干したふかふかの布団の気持ちよさは誰もが経験したことがあるのではないだろうか。このソファは布団で覆われている。木のベンチに布団がただ覆いかぶさっているだけだ。布団を掛けると、木のベンチはソファらしく見えてくる。

ソファはいろいろな使い方をするものである。しっかり腰掛けるときもあれば寝転んだりもする。ソファで寝るという行為は布団で寝るという自然な行為になる。

干した日のふかふかの布団に包まれる心地よさ。これはソファというよりも、ただベンチに干されている布団なのかもしれない。



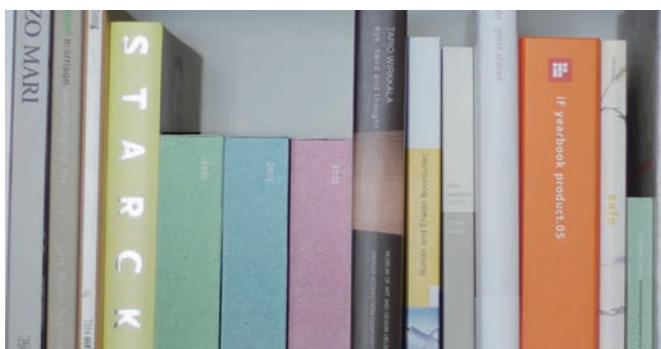
幸せのデザイン

紙・絵の具・木・布
 h175×w76×d45mm
 h15×w200×d80mm
 h90×w70×d70mm
 w90×d65mm

田澤 亜希
 Tazawa Aki
 デザイン工芸コース

普段は意識していないことに「そういえばこんなことも幸せだったな」と感じることもある。そんな些細な幸せに日々気付いたら、日常にさえ感動できると思った。

そこで「あなたがふとしたときに感じる幸せを教えてください」という文章を添えた寄せ書きを回した。どんな幸せが日常に埋もれているのかを探ったところ、182の幸せが集まった。その寄せ書きをもとに、普段使っているものに幸せの要素を加えた。



日常の色えのぐ

「ふと見上げた空がキレイな色だった時」(寄せ書きより)

空を見てキレイな色だと感じる。周りをもっとよく見回したら、キレイな色がたくさんあった。そのキレイな色のえのぐで絵を描きたい。



スケジュールブック

「これからの予定を考える時」(寄せ書きより)

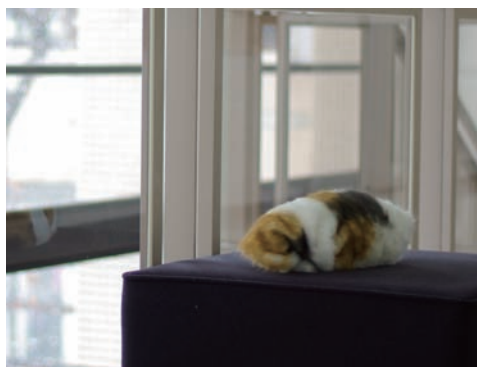
予定を記すということは自分の物語ができていくこと。そしてそれは毎年一冊の本になる。



チョコレートのなる木

「チョコレートをむさぼり食べる時」(寄せ書きより)

チョコレートをとにかくたくさん食べたい。チョコレートのなる木があればいいのに。



みけねこ

「ネコがすり寄ってきた時」(寄せ書きより)

膝に掛けて足をさすっていると猫を撫でているような、ぐしゃっとしておくと猫が丸まって寝ているような。

編んだ金属線を叩いて 生まれるかたち

真鍮線・金メッキ・鍛金
φ500×h150mm
φ500×h180mm

田中 久美子
Tanaka Kumiko
デザイン工芸コース

金属を加工する方法はいろいろありますが、その中でも私は金属を叩いて加工する鍛金という技術に興味を持っています。ただ”叩く”という単純な行為のなかで生まれるかたちや金属の変化はその行為に反し複雑で、その変化を効率よく生かしたデザインと加工方法はないかと思い、これまで制作を行ってきました。

そこで今回は、金属線を編み、その交点を叩くことによって金属が変形・硬化し、溶接などの加工を行うことなく形が固定されること、さらにその叩いた交点の形自体がデザインとして魅力を持っていることに着目し、その効果を生かせる作品としてテーブルを制作しました。

熱処理を行った後の真鍮線は、手の力で容易に曲げられるほど柔らかいものです。しかし、その線を編んで叩くことで硬化・固定され、複雑で繊細なデザインかつ強度をもった広い平面が作られます。そしてテーブルの天板から線がそのまま側面へ繋がリ、編んだ線を叩いただけに必要な構造と強度を保っています。



習性のデザイン

毛糸・合成毛皮・ゴム・プラスチック
w170×d2460×h8mm
w70×d140×h50mm
w3×d600×h3mm

藤田 理貴
Fujita Riki
デザイン工芸コース

動物は進化の過程で様々な習性を持つようになり、その多彩さは自然の叡智ともいえる。動物の習性をデザインとして再構築し、身の回りのものに落とし込むことによって、日常の中でそれらを意識する瞬間が生まれ、私たちの経験に基づいた感覚・感触の記憶と重なりあう。

マフラーは首に巻きつき、カイロカバーは体温を感じさせ、ネックレスはチクチクするような感触を呼び起こす。

日常に潜んだ習性に気づいたとき、見た人、触れた人、着用した人の想像力はかきたたられ、これまでとは違うものの見方をしている自分にも気がつくのである。



- 1 ヘビ柄のマフラー
- 2 ハムスターのカイロカバー
- 3 アリのネックレス